

研究・調査報告書

報告書番号	担当
435	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名（原題／訳）	
<p>Influence of alcohol intake on circadian blood pressure variation in Japanese men : the Ohasama study. Ohasama study における日本人男性のアルコール摂取が血圧の日内変動へ及ぼす影響について</p>	
執筆者	
Nakashita M, Ohkubo T, Hara A, Metoki H, Kikuya M, Hirose T, Tsubota-Utsugi M, Asayama K, Inoue R, Kanno A, Obara T, Hoshi H, Totsune K, Satoh H, Imai Y.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Am J Hypertens. 2009 Nov;22(11):1171-6. Epub 2009 Aug 27.	
キーワード	
アルコール摂取 血圧日内変動 日本人	
要 旨	
<p>背景： 習慣的な多量のアルコール摂取と、朝と日中の高血圧を示す血圧の日内変動のパターンは、脳出血のリスクファクターであると報告されている。そのため、これら二つの因子の関連について調査をした。</p> <p>方法： 大迫町の一般地域住民の男性 194 人に、自由行動下の血圧測定と生活習慣についての質問を実施した。また、対象者を現在のアルコール摂取量で、非飲酒者・少量飲酒者・多量飲酒者の 3 群に分類した。3 群において、2 時間毎の血圧移動平均（2h-BP）が、24 時間の血圧の変化として使用された。血圧の日内変動を指標には、2h-BP Dif（起床後 2 時間の平均血圧と起床前 2 時間の平均血圧の差）と夜間降圧度を用いた。1 日の食塩摂取量を含む交絡因子で調整した後、多変量解析を行った。</p> <p>結果： 2h-BP では、飲酒者の血圧の変動には起床前の急激な血圧の上昇と朝の血圧が高い（$p=0.0001$）という特徴があった。2h-BP Dif においては、多量飲酒者では非飲酒者よりも有意に大きかった（$p=0.04$）。一方、飲酒の状況と夜間血圧降下度には有意な関連はなかった。</p> <p>結論： 習慣的なアルコール摂取は、より大きい 2h-BP Dif と関連があった。</p>	